

あかあ!



優しい雰囲気の女将さんがお出迎え

喜庄

世田谷線 若林駅 徒歩2分

【世田谷・土木・宮崎恵子 通信員】世田谷線の若林駅を降りて2分ほどにある和食処「喜庄」。落ち着いた外観で、隠れ家のようなお店です。アットホームで優しい雰囲気、ステキな女将さんの接客が心地よく、ゆったりくつろぐことができます。



野菜の煮物は格別 大切な人との食事にお勧め

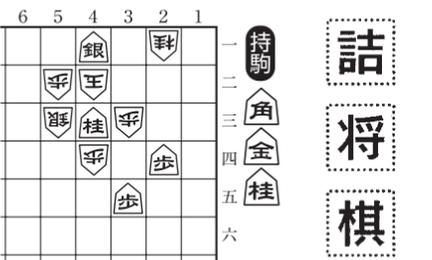
中学生時代の同級生。以前は彼女のお母様がお店を経営されて、現在は板前のご主人と一緒にお店を守っておられ、従業員たちとの食事や、分業員との懇親会などでよく利用しています。

店内は4人掛けテーブルが3席、6人ほどの個室が1つのみ、現在ランチは営業しておらず、デイナーのみの営業となっておりますので、予約から行かれることをおすすめします。

旬のお刺身の盛り合わせや天ぷら、焼き物も絶品ですが、

- 生ビール 600円
- 馬刺し 1400円
- 肉豆腐 800円
- 稲庭うどん 800円
- 定食 1400円
- 盛り合わせコース 3500円

【営業時間】18時〜22時/月曜休
世田谷区若林5-7-11
☎03-5481-8331



詰将棋

私は昭和8年に、小作農の家に生まれた。戦争には行っていないが、戦争の体験者、犠牲者でもある。尋常小学校に入学する時は帽子や学生服、靴を買い揃えてくれたりと、戦中や終戦直後に比べれば戦前はまた良かった。



大工 岸 實

忘れえぬ頃と 食糧難のあの頃と 同じ思いさせてならぬ

昭和16年12月、ハワイへの奇襲攻撃で「大東亜戦争」が始まった。配給制で衣服や履物がなくなった。紙もなくなったので、教科書は上級生のおさがりになった。勉強は午前中だけで、午後は出征中の農家の手伝いや薪拾い、校庭を耕して農作業をする。家に帰っても、軍馬の餌になるくずの葉を乾燥させる作業がある。学校を通して軍に供出した。東京への空襲が始まり、疎開者が来たことで食糧難はますます厳しくなった。山里にある私の小学校でも空襲警報が鳴るようになった。学校では、裏山に逃げる練習、敵が落下傘で降りてきたら竹槍で突く、飛行機で機銃掃射されるから大木の陰に隠れると教えていた。子ども心ながら、こんな事をして勝てるはずがないと思った。昭和20年8月15日、終戦。それまでの教科書は墨で塗られて、読むところは半分になっていた。間もなくして、GHQの指令で農地改革が行なわれる。我が家も地主から借地を買い受け、自作農になり、暮らしは段々と良くなった。今は戦時中と比べ、天国のようだ。食べ物がなく、勉強したくてもできないということがない。今の子供に同じ思いをさせないためにも、もう二度と戦争をしては、ならない。(清瀬久留米)

2019年に金融庁がまとめた報告書では、平均的な高齢夫婦の場合、公的年金などでは毎月約5万円の赤字が続く、退職後の30年間で2000万円が不足するとの例を示し、物議をかもした。

今回紹介するのは、経済ジャーナリストの荻原博子が街頭大型ビジョンから「2000万円どころか4000万円が必要」と訴えるシーンが始まる『老後の資金がありません!』(2021年製作)。垣谷美雨の同名ベストセラー小説を、前田哲監督で映画化したコメディドラマだ。家計に無頓着な夫の章松重豊、フリーターの娘・まゆみ新川(優愛)、大学生の息子・勇人(瀬戸利樹)と暮らす後藤篤子(天海祐希)は、

YMO誕生秘話

先月11日に誤嚥性肺炎のために死去したミュージシャンの高橋幸宏は、1978年2月のある日、坂本龍一とともに細野晴臣の自宅に招かれた。こたつに入っておにぎりを食べながら、二人は細野から分厚いノートを見せられる。そこには、「コンピュータを使った音楽を全世界でヒットさせる」とのコンセプトとともに、噴火する富士山の絵に「アメリカで200万枚のヒット!!」と書かれていたという。

チヨット一服(1075) アメリカのプロバスケットリーグ、NBAの八村塁選手がレイカーズに移籍した。レイカーズはLAにある屈指の名門チームで、日本でNBAといえば、マイケル・ジョーダンがいたシカゴブルズか、このレイカーズが有名なのではないか。なんといってもチヨット一服(1075)がカッコいい。黄色主体に青紫の配色が絶妙で、西海岸のLAが持つオープンな都会的なイメージにぴったりだ。人気チームへの移籍だからと、喜んでばかりはいられない。ポテンシャルを生かし切れないという評価もあるようだ。この機会に、八村選手に再注目したい。

人生100年時代の老後を考える

監督 前田 哲

2000万円不足の試算が出されたのはコロナ禍になる前。この間、ロシアのウクライナ侵攻に端を発した戦争の長期化などもあり、インフレが加速するなか、「百年安心」を口実に導入された「マクロ経済スライド」のおかげで今日の食事さえままならない年金生活者がふえ続けている。耳心地の良い言葉ばかりを並べた方針演説の裏で、その手では増税を企む岸田首相には、この映画を観て庶民の現実と根差した施策を講じてほしいものだ。

